

渡邊式 電車と車のハイブリッド利用法

例えば…

自宅



全て車で移動すると…

渋滞

問題点
1人1人は便利だが、道の渋滞により、社会全体としては渋滞のデメリットが出ている状態。

目的地

この状態は、社会的ジレンマと呼ばれ、個々の利益・収益などと、公共の利益・公益が、乖離してしまっている状態。

途中で電車に変えると

自宅

車で移動

最寄り駅

電車で移動

目的地

▷歩く距離UP!
▷二酸化炭素の排出量を減らして環境面もGOOD!

府中から福山に買い物に行く時も、たまにはできるだけ近い駅まで車で行って、そこに車を止めて、電車に乗って目的地に行くという方法も。

次回

地域を支える公共交通を維持するために、私たちができること。次回は交通工学の専門家にお話を伺います。

交通の視点

第1回 クルマは万能の利器?

生活の全てがクルマで成り立つ大多数の皆さん。生活のすぐそばにある公共交通機関の意義と将来を、「自分の事」として見つめ直してみませんか。「移動」を見つめる連載を始めます。

問い合わせ先 都市デザイン課 (☎43-7159)



1万歩ぐらい歩いてるんじゃないかな。東京の人の方が歩いて、地方の方が歩かないのが現状だよ。」

最後は高齢化社会の問題

「誰かが高齢者になるわけですよ。なので、いつまでクルマに乗るのか、ちよつと考えていただきたい。クルマに乗らなくなったら、移動手段はどうしようかと。その時に公共交通に乗ろう・使おうと思っても手遅れになりそうですよね。このような環境問題だったり健康対策だったり高齢化社会のことを考えると、やはり公共交通は、みんなの移動を支えるという意味

で不可欠なのではないのかなと思っっています。」

「クルマを使う生活は大変に便利です。しかし「環境や健康の問題以外にも、クルマ依存による弊害はたくさんある」と教授は解説します。「一番は渋滞だよ。渋滞するから道路整備が必要となり、多額の税金をつぎ込むけれど、本当にお金の使い方として有効なのでしょうか?」

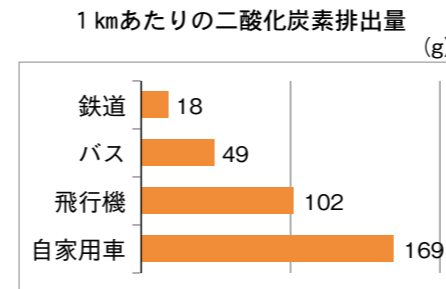
「意外な弊害が、経済的な観点からも。それに意外とクルマは維持するための費用がかさむんじゃないかな。毎月のガソリン代、3年ないし2年に一度の車検や税金。強制保険だけじゃなくて任意保険の加入者も多いだろうし。さらに、駐車場代なんかがかかると、意外と維持費が1台だと、もう半端なお金じゃないですよ。」

「あとは、事故のリスク。仮に重大事故を起こすと、相手に相当な賠償金を払わないといけない。クルマを持つことで経費やリスクの負担が大きいよね。」

「私はマイカーに乗るから公共交通は関係ない」そう思っている人が多いですよ。でも高齢者になって公共交通を利用しようと思ったら廃止されていたとなるのでは? このままずっとみんなが「マイカーで良い」と言ったら、公共交通はなくなりますよ。だって利用者がいなければ維持できなくなるの明白だし。今から公共交通の維持にみんなで取り組まないといけない。クルマは便利だし、快適だし、楽しいし、時にはかっこいいかもしれないけど、TPOに合わせて賢く交通手段を選ぶべきです。



そう話すのは、福山市立大学 都市経営学部 教授であり副学部長の渡邊一成さんです。府中市地域公共交通活性化協議会の会長を務めておられ、都市計画分野に精通し、今回、公共交通の維持についてお話を伺いました。



自家用車は路線バスの約3倍環境負荷が大きいことが分かる

なぜ公共交通が必要なのか
府中市民の約7割が運転免許を持つ時代、なぜ、乗合が前提の交通機関が必要なのか。渡邊教授は環境、健康、移動手段の確保の観点による3つの必要性を提唱します。

「まず環境面では、移動による二酸化炭素の排出量の問題。これは、最近よく言われているSDGsにもあるけども、地球温暖化に非常に関わってくる。左図は1人1キロ運ぶのに排出する二酸化炭素を表したグラフで、通勤や買い物は、1人とか2人で行くことが多いから二酸化炭素排出量

「皆さん心当たりがあると思うけど、クルマだどにかくドアツードアでほとんど歩かない。健康を維持するためには1日約8000歩ぐらい必要と言われているけど、クルマを普段使わない僕でさえ、今は1日3000歩ぐらい。少ないと100歩とかになっちゃう。実は、東京の人ってすごくよく歩いている。通勤も、取引先に行く時も、電車使ったり、地下鉄使ったりするので、1日

SDGsと呼ばれる持続可能な開発目標とは、世界が今以上によくなるために、2030年までに世界の全員で協力して解決を目指す17の目標のことを言います。